

京の博物館

目次

| | | | |
|-------------------|---|---------------------------|----|
| 巻頭言…………… | 1 | 京のかるちゃーすぽっと「ひと・もの・わが館自慢」… | 8 |
| おこしやす | | ・お辨當箱博物館 ・染・清流館 ・新島旧邸 | |
| ・北村美術館…………… | 2 | 美術館・博物館と私…………… | 11 |
| ・三宅八幡神社 絵馬展示資料館 … | 4 | ティータイム…………… | 12 |
| トピックス…………… | 6 | | |

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

巻頭言

美しい地球を次世代に伝えるために

笹岡 隆甫

(華道「未生流笹岡」次期家元)

自然と対立するような大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会は限界に達しています。地球規模で進む環境破壊に対して「今、何かしなければ」という危機感は皆が共有し、美しい地球を次世代に伝えるために誰もが何かをしたいと考えている。しかし、次の一步を踏み出せずに、立ち止まっていますか。

環境問題を声高に叫ぶと、どうも重苦しく、つい敬遠してしまいます。環境を意識した作品展示やシンポジウムも、下手をすると、説教くさくなってしまう恐れがあります。

決して堅苦しくない形で、身近に環境を考えられるきっかけを作りたい。私がそんな想いで立ち上げたのが、「DO YOU KYOTO? ネットワーク」です。同世代のよき先輩でありよき仲間である、池坊由紀、千宗員、千宗屋、藪内紹由各氏ら、伝統文化の若き継承者に呼びかけて発足。今年2月には、京都高島屋1Fの特設舞台上で、メンバーのコラボレーションによるイベントを行いました。

イベントの趣旨は明快です。

「説教くさいものはダメ。洗練された舞台を見せよう。」

廃材などを使ってエコを前面に出す展示ではなく、京都の四季がなくなったらさみしいと観客に自分自身で答えを見つけてもらえるよう、伝統文化の粋が詰まったステージに特化しました。

私が担当したのは、舞台上で大きないけばな作品が完成するまでの過程をご覧いただく「いけばなパフォーマンス」。江戸時代のいけばなの伝書には、床の間の前で花をいける所

作をご覧いただく「花手前^{はなてまえ}」の記述があります。「いけばなパフォーマンス」は、その現代版です。今回は、海と月をイメージした三木啓樂さんの漆の花台、雨上がりの空を表す諏訪蘇山^{すいじょう}さんの青瓷の壺を使い、箏の演奏に合わせて、苔むした梅の古木をいけあげました。花台も花器も、本イベントのための特注品です。

続いて、完成したいけばな作品を大道具仕立てとし、橋本忠樹さんが仕舞を、井上葉子さんが京舞を披露。能の演目は、「胡蝶」「東北」など、梅を主題としたもの。凛とした美しさを持つ白梅の枝越しに、あでやかな能装束を身につけたシテ方が舞う姿はなんとも品格があり、観客の皆様からは思わず感嘆のため息がもれていました。

このステージを構成した日本の伝統文化はすべて、四季の移ろいを鋭く見つめる中で生まれてきたもの。しかし、このまま環境破壊が進めば、この美しい日本文化は意味をなさなくなります。今こそ、花鳥風月を愛する日本文化を見直し、自然を尊び、自然に学ぶ姿勢を取り戻さなくてはなりません。

京都は、古くから自然と共生する心豊かな暮らしを実践してきた街。美術館・博物館でも、誰もが肩肘はらずに環境を考えることができるような取り組みが広がることを期待しています。



おこしやす

きたむらびじゅつかん 北村美術館

事務長 原田 洋一

館のあゆみ

北村美術館は、昭和52年に北村文華財団により鴨川沿いの一角に設立されました。館の収蔵品は、財団の初代理事長であり美術館の館長でもあった北村謹次郎氏が、主に第二次世界大戦後に収蔵した古美術や茶道具等です。毎年、春・秋に特別展を開催しているほか（春は3月～6月、秋は9月～12月）、時には臨時的展示も行っています。



北村美術館 外観

創業者・北村謹次郎氏について

北村謹次郎氏は、明治37年に奈良県の吉野山の麓、吉野川沿いの大和上市に生まれました。生家はお茶との関わりが深く、物心つく頃から両親達が稽古をしている姿を見て育ちました。その後も茶道との関わりは続き、大学二年生の時に表千家に入門。昭和11年には、現在美術館のある京都御所近く

の土地を購入し、昭和15年に現在、国の登録有形文化財となっている四君子苑しきんしえんの建築に着工し、その完成に精魂を傾けました。

戦後は、山林を売ったり借金をしながら、財産税や贅沢税の関係で旧家や名家が手放す美術品を収集。昭和50年に、茶道文化の研究助成に加え、その発展に寄与することを目的に北村文華財団を創設し、その2年後には京都における茶道美術館のさきがけとして北村美術館を開館させて館長に就任されました。そして平成3年に、88歳の生涯を終えられました。

現在、氏が半生をかけて収集した遺品は、すべて北村文華財団に引き継がれています。

石造美術品の宝庫「四君子苑」.....

当館の建つ一帯の土地は、江戸時代前期に明正めいしょう上皇が離宮を営まれた景勝の地です。その後は後陽成天皇の皇子・常修院宮慈胤法親王じいんほっしんのうが上皇からこの土地を賜り、比叡山延暦寺の三門跡のひとつである梶井宮（現在の三千院）の里房を建てて住まわれたことから、今も「梶井町」の地名が残っています。当館では、このような歴史的由緒と景勝に恵まれた地で、心行くまで茶道美術品を味わっていただくことができます。



対向孔雀文水鉢

収蔵品について



六角型石燈籠

当館の収蔵品はすべて、北村謹次郎氏が半世紀をこえる歳月をかけて収集したものです。氏は生前「茶道具は本来つこおてこそが生命。せめてその美しさをみせる場として静寂と潤いを持ち、道具だけでなく箱や仕覆も一緒に展示して、その醍醐味を来館者に楽しんでもらいたい。茶の湯を楽しむには、まず、茶道具の持つ美を理解することから始まるのだから」と口にしていました。

茶の湯に生涯を捧げた氏の茶風を表現し、氏の茶会の雰囲気味わっていただくため、目下のところ、他館からの借り受けは避けて、館の収蔵品のみで展示を行っています。

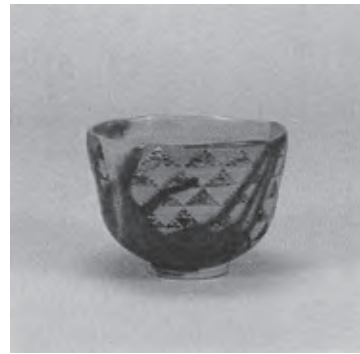
収蔵品の内容は、重要文化財33点、重要美術品9点を含む絵画、書蹟、彫刻、木工、陶磁、金工、漆工、染織、人形等、多岐にわたり、日本はもとより中国・朝鮮・東南アジア・ヨーロッパなど世界各地の美術品が揃っています。



茶席「珍散蓮」

隣接する四君子苑では、五山の送り火で有名な「大文字」を正面に望み、東山を見事な借景としています。また、重要文化財を含む50点あまりの石造美術品が配置されています。

四君子苑の名の由来は、四君子すなわち菊・竹・梅・蘭の4つの頭文字をとると「きたむら」になることから、またその品位にあやかると願ってと北村謹次郎氏は述べていました。自らを普請道楽と言った氏が作り上げた数寄屋建築の茶苑は、春・秋に10日間ほどの公開を行っていますが、茶道・茶道具にゆかりの方だけでなく、建築の仕事に携わっている方や、勉強中の学生の方も見に来られています。



仁清作 鱗波文茶碗



宗旦作 瓢花入 銘 達磨

北村美術館

所在地 〒602-0841

京都市上京区河原町今出川下る一筋目東入

TEL (075) 256-0637 FAX (075) 256-2478

交通 市バス4, 17, 205系統「河原町今出川」下車 徒歩2分

京阪電鉄「出町柳」駅下車 徒歩7分

開館時間 10:00~16:00

休館日 月曜日(祝日の場合は開館。ただし、その翌日休館)

夏・冬期間(春: 3月中旬~6月上旬, 秋: 9月中旬

~12月上旬のみ開館)

入場料 一般600円 学生400円 (30名以上は団体割引あり)

※5月15日の葵祭によせた神事の釜の取り合わせとして、平成22年6月13日(日)まで、「新緑祭釜」を展示(重要文化財である、藤原定家筆の「明月記」なども特別展示中)。

三宅八幡神社について

左京区上高野の地にある当社は、子どもの守り神として知られています。

推古天皇の御世に、小野妹子が遣隋使として隋に向かう途中、筑紫の辺りで病気になり、近くの宇佐八幡宮に祈願したところ、またたくまに平癒。隋に渡った後も、数々の危難を逃れて無事に帰国することができました。聖徳太子の没後、この上高野の地に移り住んだ小野妹子が、その時の御恩に報いるため宇佐八幡をこの地に勧請したことが縁起とされています。その後、南朝の忠臣であった備後三郎^{びんこさぶろう みやけたかのり}三宅高德がこの地に移り住み、大神を崇敬したことから、いつしか「三宅八幡宮」と称するようになりました。

室町時代、応仁の乱の戦火のため一度は全焼しましたが、数十年後に里人たちによって復旧され、明治に入って拝殿(明治2年)、本殿(明治20年)が再建されました。

鳥居の前には、「狛犬」ならぬ「狛鳩」がいます。そもそも八幡宮の鳩は神様の使いとして大切にされてきましたが、当宮では拝殿の幕にも鳩の絵が描かれているほか、石燈籠や

瓦など境内のあちこちで鳩の模様を見ることができ、鳩と大変深い縁があることがわかります。

宇佐八幡宮から石清水八幡宮へ八幡神を勧請した際に、白い鳩が道案内をしたと伝えられ、以来、八幡宮の「鳩」は神様の使いとして大切にされてきたという言い伝えがあ



狛鳩

ります。鳩は八幡神の使いとして武士などに信仰されましたが、三宅八幡宮と鳩との関係がこれほど深いものとなったのはいつ頃か、またその理由など、詳細は不明です。

俗に「虫八幡」ともいわれる三宅八幡宮は、子どもの「かん虫封じ」の神として信仰を集めてきました。地元の伝承では、もともと「田の虫除け」の神であったが、後に「子どもの虫除け信仰」に移ったとされています。

この信仰についての詳細はあきらかではありませんが、幕末から明治にかけて信仰が拡大し、京都市内と南近江を中心に、山城、摂津、そして北河内、大和までを含む範囲に及んだといわれています。

絵馬展示資料館について

このように幕末～明治末期にかけては、子どものかんの虫封じの信仰が隆盛を極め、当社が子どもの神様として広く伝播し、信仰を集めたという記録があります。

その際に参詣者から奉納された数多くの絵馬が、長く絵馬堂や神楽殿に掲げられていましたが、それらをおろして調査したことが、絵馬展示資料館の設立につながりました。



絵馬展示資料館 外観

思い返せば平成12年のことです。西山克^{まさる}京都教育大学教授（現・関西学院大学教授）と京都市文化市民局文化部文化財保護課が、絵馬堂、拝殿、神楽殿にかかっていた絵馬150枚数をおろして基礎調査を行ったところ、歴史民俗学上価値の高いものであることが判明し、平成13年には133点の絵馬が京都市有形民俗文化財に指定されました。文化財の指定を受けたことを契機に、地域の貴重な文化財についてさらに理解を深めようと、京都市文化財保護課の指導のもと、神社役員、地元有志、ボランティアの方々のご協力のもと、絵馬のクリーニング、^{ほりおと}埃落し、奉納者氏名の読み取り、奉納者のルーツ探索などを行いました。

平成15年には絵馬保存会を設立して調査報告書「洛北上高野八幡さんの絵馬」を発行、そして、平成20年5月に念願の絵馬展示資料館を開館しました。

現在は、所蔵する絵馬のうち124枚が国の重要有形民俗文化財に指定されており、絵馬展示資料館では、そのうち、59枚を展示し、これら『子育て祈願絵馬』の保存と、その伝承に向けて活動を行っています。

展示されている絵馬について

幕末から昭和初期までの間に奉納された大絵馬のうち133点の絵馬が「子どものかん虫封じ」を中心に「育児習俗」および「十三参り」などの成人儀礼に関連したものです。なかでも幕末から明治30年代にかけて奉納された、「かん虫封じのお礼参り」の参詣行列を描く絵馬群がよくまとまっています。中でも描かれる人数の最多のものは638人が描き分けられています。特記すべき点として、行列に参加する人物それぞれに個人名が記された付箋が貼付されている他、服装や子どもたちの遊び方などの風俗が克明に描き分けられています。明治24年に奉納された大絵馬からは、有名な七宝作家・



描かれる人数が最多の絵馬 [明治2 (1869) 年奉納]



最古の絵馬 [嘉永5 (1852) 年奉納]

並河靖之氏の名を参詣者の一人として読み取ることができません。

奉納されている中で最も古い絵馬は、嘉永5 (1852) 年に奉納された、子どもたちが遊ぶ様子を描いた大絵馬です。保存状態もよく、唐子風の髪形をした子どもたちが描かれています。

わが子の健やかな健康と成長を願って奉納された本絵馬群は、時代性や地域性が窺える好資料であるとともに、当時の育児・成人習俗というひとつのテーマに沿った絵馬としては、質量とも類をみないものであると高い評価を受けています。

ぜひ機会を作って、お越しいただき、じっくりご観覧の上、神様に信心を寄せた庶民の熱き願いを感じ取っていただければと思います。



並河靖之氏

三宅八幡神社 絵馬展示資料館

所在地 〒606-0085

京都市左京区上高野三宅町22

TEL・FAX (075) 781-5003

交通 叡山電鉄鞍馬線「八幡前」駅下車 徒歩2分

叡山電鉄叡山本線「三宅八幡」駅下車 徒歩6分

京都バス「八幡前」下車 徒歩1分

京都バス「三宅八幡」下車 徒歩5分

地下鉄「国際会館」駅下車 徒歩15分

開館時間 10:00~15:00 (無休)

入場料 一般300円 (10名以上は団体割引あり)



平成22年度 京博連総会を開催

去る6月24日(木)、京都国際マンガミュージアムにおいて、平成22年度京博連総会を開催いたしました。

総会では、樋口隆康会長による開会あいさつのあと、来賓として御出席いただいた細見吉郎京都市副市長から、門川大作市長のあいさつを代読していただきました。続いて永年勤続者の皆さんへ、樋口会長から表彰状と記念品が、細見副市長から市長感謝状がそれぞれ手渡されました。

議事では、役員改選案が提出され、満場一致で可決されました。新役員の任期は平成24年6月までです。総会終了後は、京都国際マンガミュージアム研究員の表智之氏から「博物館資料としてのマンガ」と題した講演をいただき、ミュージアム内の自由見学も行いました。

会場を御提供いただいた京都国際マンガミュージアム、また博物館ふれあいボランティア「虹の会」の御協力のもと、本年度の総会も盛大に開催することができました。



表彰の様子



講演風景

栄えある御受賞、お祝い申し上げます

京博連加盟館において永年にわたり勤務され、博物館施設の充実・発展、文化の向上に寄与された方々に京博連表彰を行いました。(五十音順)

功労賞

| | |
|--------------|---------|
| 京都市考古資料館 | 中村 敦 様 |
| 京都市青少年科学センター | 本部 勲夫 様 |
| K C I ギャラリー | 新居 理絵 様 |
| 泉屋博古館 | 廣川 守 様 |
| 元離宮二条城 | 井上 直樹 様 |

奨励賞

| | |
|------------|---------|
| 京都国立博物館 | 浅湫 毅 様 |
| | 永島 明子 様 |
| 京都市学校歴史博物館 | 秋山美津子 様 |
| 京都市考古資料館 | 原山 充志 様 |
| | 村木 節也 様 |
| 思文閣美術館 | 高山 明子 様 |

職員研修交流会を実施

9月9日(木)、京都ロイヤルホテル&スパにて、平成22年度の職員研修交流会が行われました。本年度の研修会では、京博連相談役の榊原吉郎氏に講師をお務めいただき、「美術館とは？ ～作品の一側面～」をテーマに御講演いただきました。

研修会のあと、会場では引き続き交流会が行われ、参加した職員の皆さんにとって、楽しく語り合いながら、情報交換を行うひと時となりました。



榊原先生の講演

新役員を紹介(任期 平成22年7月1日～平成24年6月30日)

| | | |
|----------|-------|-------------------|
| 会長 | 樋口 隆康 | 泉屋博古館館長 |
| 幹事長 | 細見 良行 | 細見美術館館長 |
| 副幹事長 | 井上 満郎 | 京都市歴史資料館館長 |
| | 田中 恵厚 | 宝鏡寺門跡住職 |
| 幹事 | 赤尾 栄慶 | 京都国立博物館学芸部副部長 |
| | 大邊 徹 | 大河内山荘代表 |
| | 潮江 宏三 | 京都市立芸術大学芸術資料館館長 |
| | 谷 晃 | 野村美術館学芸部長 |
| | 橋本 眞次 | 白沙村荘橋本閑雪記念館副館長 |
| | 安西佳津子 | いけばな資料館池坊中央研究所 |
| | 山野 英嗣 | 京都国立近代美術館学芸課長 |
| | 樂 扶二子 | 樂美術館専務理事 |
| 監査 | 才寺 篤司 | 京都商工会議所産業振興部副部長 |
| | 本部 正一 | 社団法人 京都市観光協会事務局長 |
| 庶務(事務局長) | 山本 浩智 | 京都市教育委員会生涯学習部担当課長 |

| | | |
|-----|-------|--|
| 相談役 | 石原 義正 | 京菓子資料館理事長 |
| | 木村幸比古 | 霊山歴史館学芸課長 |
| | 榊原 吉郎 | 京都市立芸術大学名誉教授 |
| | 筒井 紘一 | 茶道資料館副館長 |
| | 栗山 一秀 | 月桂冠大倉記念館名誉館長 |
| 顧問 | 北川 和夫 | 思い出博物館館長 |
| | 桜井 茂男 | 京都市特別社会教育指導員 (元島津創業記念資料館館長) |
| | 長澤 勇 | 京都市特別社会教育指導員 (元京都市教育委員会生涯学習推進課専門主事) |



平成22年度 京都市博物館連続公開講座

毎年、市民の方々から大変好評を得ている本講座を、本年度も加盟館協力のもと全5回で開催いたします。

第1回

日時 平成22年10月30日(土) 午後2時～4時
会場 思文閣美術館
(左京区田中関田町2-7)
講師 慶應義塾大学文学部教授 石川 透氏
テーマ 「奈良絵本・絵巻とはなにか」
募集人数 40名

第2回

日時 平成22年11月16日(火) 午後2時～4時
会場 大西 清右衛門美術館
(中京区三条通新町西入釜座町18-1)
講師 館長 大西 清右衛門氏
テーマ 「朽ちゆくものの美-茶の湯釜の制作と鑑賞-」
募集人数 40名

*参加者は各講座ごとに募集し、受講料は無料です。
*京都市が毎月発行する広報紙『市民しんぶん』等で参加募集(平成22年9月号から)。応募者多数の場合は、抽選を行います。
*主催:京都市内博物館施設連絡協議会/京都市教育委員会

新規加盟会員の紹介

昨年度の第5回幹事会(2月)以降、新たに6会員が入会されました。

正会員

※五十音順

- ◆千本釈迦堂 大報恩寺 霊宝館(上京区五辻通六軒町西入溝前町1034)
- ◆大覚寺 霊宝館(右京区嵯峨大沢町4)
- ◆長楽寺 収蔵庫(東山区円山町626)
- ◆東福寺 光明宝殿(東山区本町15丁目778)
- ◆日本髪資料館(東山区大和大路四条上ル常磐町164 白川ビル2F)
- ◆善峯寺 寺宝館 文殊堂(西京区大原野小塩町1372)



べんとうばこはくぶつかん
お辨當箱博物館

株式会社 半兵衛麩

本店店長 荻谷 昌宏

わが館を紹介

室町時代に中国へ渡った修行僧によって「麩」は伝えられ、肉食を口にしないなどの厳しい戒律の禅僧の貴重なたんぱく源として生まれてきました。

江戸時代中期（1689年〔元禄2年〕）初代半兵衛が京都で麩づくりをはじめたのが半兵衛麩のはじまりです。創業320年の当店は五条大橋のたもとにあり、築100年ほどの京町家で、走り庭・井戸・おくどさん・坪庭などが今も残る佇まいと、近代的な鉄筋の洋風建築が合併しております。

1階は麩・ゆばの販売、またそれらを色々なお味に調理してお客様に味わって頂ける茶房がございます。2階には江戸時代に使われていた「お辨當箱」の展示をしています。お皿やお重箱だけでなくお酒を入れるものやお箸まで組み込まれたもの、持ち運びに便利のように天秤式になったものなど多種ございます。お皿・お重箱・杯などの柄や模様、形などをお家様たちが競っていたと言われる華やかなお辨當箱もあり、当時のあそび心と日本の美をご覧できるように展示してあります。今では京都観光に来られた方や修学旅行のグループさん、研究のために来られる先生方や日本文化を勉強されている外国人の方なども興味をもって観覧されております。興味をお持ちの方は係員による展示物などの説明もさせていただきます。



華やかなお辨當箱



通り庭

わが館ひと自慢

お辨當博物館である半兵衛麩の本業は「麩」に関連した商品の開発・製造・販売です。従業員全員が家訓である「先義後利」・「不易流行」の精神を大切にし、しにせとしての優秀な商品と行動に責任と誇りを持ち、みなさまと末長いお付き合いにつながるよう心がけております。皆さまに感動を与えお役に立てるよう努力しております。



半兵衛麩本店（お辨當箱博物館）外観

わが館もの自慢

お辨當箱の展示と一緒に、それを実際に使っていた当時の嵐山や鴨川でのお花見の風景や町衆の様子を描いた掛け軸や屏風なども展示してあります。今も昔も変わらず桜の木の下でお食事をしたり、お酒を飲んだり伝統的な行事に歴史を感じられます。その他にも麩の食文化としまして「麩づくり」に係わる昔の道具や天保年間のお茶会で千利休が好んで食したとされる「ふのやき」を記載された古文書なども興味深くご覧いただく事が出来ます。弊社では京都・日本の伝統・文化の伝承と発信を行い、社会の充実に貢献することが出来ればと考えております。



古文書



麩づくりの道具

●所在地

〒605-0903
京都市東山区間屋町通五条下ル
上人町433（五条大橋東側）
半兵衛麩本店内

●TEL

(075)525-0008

●FAX

(075)531-0748

●交通

京阪電鉄「清水五条」駅下車 徒歩1分
JR・地下鉄・近鉄電車「京都」駅から
車で5分（専用駐車場はありません）

●開館時間

9:00～17:00

●料金 無料

●ホームページ

<http://www.hanbey.co.jp/top.html>

そめ せいりゅう かん
染・清流館

事務局長 山本 六郎

わが館を紹介

京都は世界に冠たる染色の街ではありますが、公私ともにその作品を収集した美術館は一館もなく、平成18年10月、当館が日本で初めて現代染色美術館（館長・木村重信）として設立されました。

ビルのなかの一室ではありますが、精華町にある国立国会図書館を設計された陶器二三雄氏の室内設計で、品格ある畳敷きの美術館です。



150畳の畳を敷きつめた広い展示室

京都は昔から職人の街として発展して

まいりました。そのなかで染色も、古くから伝わる伝統工芸として現在まで先人達が築いてまいりました。昭和の初期から染色は単に「用」だけではなく、「芸術」としても認められ、戦後、京都市立美術大学に染織図案科ができ、優秀な染織家を育ててきました。小合友之助、稲垣稔次郎と云う偉大な作家から佐野猛夫、三浦景生、来野月乙等が続き、現代染色の礎となり、現代染色は築かれてきました。



染・清流館 入口

わが館もの自慢

平成元年、小澤淳二会長を中心に現代染色美術の普及と若手染色作家の育成を目指し「清流会」を発足、翌々年から毎年、京都市立美術館で「染・清流展」の開催を15年間続けてまいりました。平成19年からは、ビエンナーレ形式で染・清流館におきまして発表させていただいております。その間、展覧会に出品された作品数十点を毎年購入し、現在五百点余の作品を収蔵いたしております。

「染・清流展」は、これから先まだまだ続けてまいります。

当館は、世界に誇る染色の魅力を全世界へ発信する基地として、その役割は大変重要だと自覚し、若手染色作家を育成しながら魅力ある企画をたて、染色芸術がどんどん普及する為に頑張っけてゆきたいと心がけてまいります。

最後に「染」と云うことばが「相撲」や「柔道」のように世界語になることを夢見て、世界へ向かって邁進してゆきます。



展示風景

●所在地

〒604-8156
京都市中京区室町通錦小路上
明倫ビル6階（京都芸術センター北隣）

●TEL (075)255-5301

●交通

地下鉄「四条」駅・阪急電鉄「烏丸」駅下車
徒歩5分

●開館時間

10:00~18:00（入館は17:30まで）

●休館日

月曜日（祝日の場合翌日。展示替えの臨時休館あり）

●料金

一般300円、高・大学生200円、

小・中学生無料

※15名以上の団体、障害者手帳持参の方は割引あり

●ホームページ

<http://somesairyu.net/>

にい じま きゅう てい
新島旧邸

同志社社史資料センター社史資料調査員 小枝 弘和

わが館を紹介

今出川通から寺町通を下がっていくと、木造の瀟洒な建物が左手に見えてまいります。同志社英学校の創立者である新島襄とその妻の八重の邸宅です。2人の旧居であったことから、現在は新島旧邸と呼ばれています。この家屋は1878（明治11）年に建てられました。

新島襄は、今から135年前の1875（明治8）年11月25日、同志社英学校を設立しました。最初は仮校舎からの出発で、その校舎は現在新島旧邸が立つその場所にありました。開校の翌年に英学校は今出川へと移転します。新島は英学校移転後の跡地を購入し、自宅を新築しました。つまり、この地は、新島の旧宅があると同時に同志社発祥の地であり、これまで大切な場所とされてきました。

建物の外観はコロニアル・スタイルで、内部にはフローリングや土間のないダイニング・キッチンなどがあり、洋風の建築物という印象を持たれることが多々あります。しかし、建築技法をはじめ、箱階段、障子欄間や間仕切りの襖など、基本的には和の技法や要素をベースに洋の良さが取り入れられています。まさに和と洋のエッセンスが折衷されています。設計に関わったと言われる新島や宣教医W.テイラーのセンスを感じ取ることができます。



新島旧邸 外観

わが館ひと自慢

新島旧邸は解体修理工事を終えた1992（平成4）年から無料で一般公開しております。開館時には常に3人から4人のスタッフが常駐しております。いずれも新島旧邸への愛情にあふれるスタッフです。



新島旧邸のスタッフ

わが館もの自慢

1985（昭和60）年、新島旧邸は家具・調度類を含めて京都市指定の有形文化財となりました。邸内のあらゆるものが、新島が存命中過ごした時の雰囲気を作り出しており、その雰囲気を追体験していただくことができます。さらに、邸内の台所をはじめとする女性の仕事の場は八重の背丈を考慮して設けられていることがうかがえ、建物の随所で新島夫妻の心遣いを見ることができます。



台所



茶室「寂中庵」

1890（明治23）年に新島襄が永眠します。その後の邸宅の主は八重でした。八重は永眠する1932（昭和7）年まで一人でこの建物に住みますが、夫の死後邸宅の一部を改築し、茶室「寂中庵」を設けております。八重は「新島宗竹」という茶号を持つ茶人でした。洋風の中に存在する和の面白さを感じていただくことができます。

八重の永眠後から改修前まで、同志社関係者が旧邸の敷地内に住み、大切に管理をしてきました。創立者をはじめとする多くの方々の想いが詰まった旧邸へどうぞお越しください。

●所在地

〒602-0867
京都市上京区寺町通丸太町上る松蔭町

●TEL

(075)251-3042

●FAX

(075)251-3055

(同志社社史資料センター)

●交通

地下鉄「丸太町」駅、京阪電鉄「神宮丸太町」駅下車 徒歩10分

●開館期間

3月～7月、9月～11月の水・土・日曜（祝日は除く）
御所の一般公開期間（春と秋の、連続した5日間）
同志社創立記念日（11月29日）

●開館時間 10：00～16：00

●料金 無料

●ホームページ

<http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/archives/kyutei.php>

万華鏡と私と「なんで」

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
山田 隆夫

「京都万華鏡ミュージアム」でのボランティアを始め三年が過ぎた。

最初の間は来館者との出会い、ボランティアを始めるきっかけになった、文様美の感動を共有できることに満足していた。

そのうち「何かが足らん…」と思うようになった。「なんで」と自問して出た答えは、外向きはボランティアの名を借りかっこよく時間をつぶしているが、実際は活動を自分のために活かしていないからであった。

それ程深く考えず現状でも活動は続けられるが、それでは本来の生涯学習には繋がらないと思い、「なんで」の解決法として、一番身近で結果の検証ができる万華鏡作りに挑戦した。

ところがこの万華鏡作り、思った以上に魅力があり、作品が完成すると、文様の色や形を「次はもう少し…」と、妥協点がだんだん高くなって…。

そのうち万華鏡の文様はなんでどれもカラフルなんやと、別な意味での「なんで」が頭をもたげた。そこでモノトーン調の万華鏡を、それなりの評価を得てバージョン3まで作る。近頃また次の「なんで」が頭をもたげ始めた。

縁あって選んだボランティア活動、自分研きのツールとして大切にしていきたいと思っている。



京都市学校歴史博物館に寄せていただいて

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
岡本 和世

誰もが通った学校、木の床が温かく迎えてくれ懐かしいなと感じました。京都市学校歴史博物館へ寄せていただいた第一印象です。

明治の始め東京遷都の後、京都の町が寂れ、荒れていたのを知りました。そのまま廃れていたのであれば先人の知恵が生かされないという最悪の事態も起こり得ましたが、当時の学校教育者や町の人々の情熱により、復興がなされたのは素晴らしいことです。学校教育の大切さを実感した次第です。

現在、私の地域には、“教育後援会”という制度があります。昔の人を思い今のこの仕組みを守っていくのは良いことと思います。

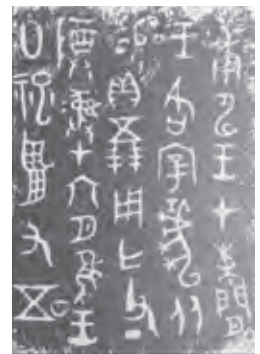
そして又博物館に貴重な資料が多く残り受け継いで大切に守られているということに、すばらしい京都の歴史を思い、ボランティア活動を細く長く続けることにより、私自身も成長できたらと思います。



ボランティアの冥利

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
河村千恵子

思えば、遠い昔、学校から日展の鑑賞に行き、今は故人である大家の絵が並んでいて感動したのが源で、美術館、博物館に足を運ぶようになった。先々で手当たり次第図録を買い、暇な時にゆっくり読み返すうちに、芸術の分野が交錯しながら拡がり趣味の一つとなった。その頃ボランティアになり、京都独特で長い歴史を下地に、個性的でこだわりのある館が二百近くある事を知った。陽明文庫、さがの人形の家、社家、高台寺蒔絵、伏見城の瓦の御香宮等々の館を訪問する機会を得て、更なる文化芸術の肉付を賜った。去年から泉屋博古館で青銅彝器、鏡鑑と、奥行が深く想像をかき立てる分野に飛び込み、悠久四千年の遺物に接し、現在を通り越し未来を先取りした様な錯覚を起す工芸品の数々、字の原点でもある青銅器に刻まれた金文を目の当たりにして書聖王羲之を想い、孔子、莊子等々聖人達が生きた遙か彼方の世界に身を置きながら……。生涯学習ボランティアの冥利につきるのである。





新緑の美術館で・・・

京都市美術館長
村井 康彦

古くから文人墨客が住まい、京都の文教地区として知られる東山から岡崎界限。明治以降、京都の近代化を象徴する疏水事業や数々の博覧会の舞台となってきました。この歴史ある地で生まれ、人にたとえば喜寿を迎えるのが、京都市美術館です。昭和3年の天皇即位大典挙の記念事業として、関西の財界や多くの市民の協力を得て、「大礼記念京都美術館」の名称で昭和8年に開設されました。いわば市民による市民の美術館の誕生です。

たくさんの方々の思いのこもるこの京都市美術館を、培った伝統を基盤に次代に向けてさらに確かな存在にしていきたいところです。

さて、そんな当館の一番の宝物は、所蔵する京都ゆかりの近現代の美術作品。点数は約2,300点と、必ずしも多いとはいえませんが、京都の美術を語る上で、高い評価を得ている作品群です。

学芸員の日ごろの研究成果をもとに、これらをテーマの



コレクション展の風景



京都市美術館 外観

もとに展示するコレクション展を始めて10年となります。

現在開催中のコレクション展「円と方」では、約100点の収蔵作品を対比してご覧いただけるよう工夫をこらして展示しています。切り取られる形により印象の異なる風景、同じ素材が平面と曲面それぞれで見せる表情など、ゆったりと展示を楽しんでいただきたいと思います。

また間近に控える公募展「京展」は、若手芸術家の登竜門として、多くの優れた芸術家を輩出してきました。出展者が研鑽を積み、やがては審査員となり、後継者を育成する。かつては徒弟という形もみられたそういう循環が、新たな創造を加えながら京都のまちの文化を連綿と紡いでいきます。

当館がその役割の一端を担っていることを、少しばかり誇らしく思いながら、美術館の陽だまりにそよぐ生き生きとした緑に包まれています。

発行 平成22年5月

編集・発行者 京都市内博物館施設連絡協議会事務局（京都市教育委員会生涯学習部内）

所在地 〒604-8064 京都市中京区富小路通六角下る 元生祥小学校内 TEL：075-251-0410 FAX：075-213-4650

ホームページ http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-17-1-0-0_13.html